



●小坂小学校創立150周年記念式典 盛大に行われる

明治7年(1874)、旧小坂小学校が下小坂の鏡得寺境内の一室に礎を築いてから150年。以来、鉾山小学校(元山小学校)、川上小学校、十和田小学校、七滝小学校、各分校等と統合を繰り返しながら発展を続けてきました。

町内の学校の集合体である本校の歴史は町の歴史であり、鉾山や観光を中心としたこれまでの町の産業振興やにぎわいと共に児童数も変化してきました。現在の児童数は131名です。

10月19日にセパーム・アリーナで開催した創立150周年記念式典は、これまでの歴史を振り返るとともに、今では中学校併設となった学校の未来を誓い合う素晴らしい機会となりました。児童代表の沢田穂恵さんのあいさつは、これからもより良い学校を創り上げていく決意に満ちたものでした。小坂町関連の歌を5曲制作している大館市在住のグループ「ダックスムーン」が記念講演・演奏を行い、「鉾山の子ソーラン小坂節」では児童たちも踊って歌って盛り上がりしました。

今日に至るまでの町民の皆様の学校教育へのご理解・ご協力に心から感謝いたします。今年度は「150周年記念」を冠して運動会や学習発表会を開催してきましたが、記念事業として「記念式典・祝賀会の開催」「記念Tシャツ作成」「記念誌発行と『昔と今の校歌集』復刻版CD作成」「記念資料室整備」「卒業タイムカプセルスペース設置」等を行っております。記念資料室はいつでも開放しておりますので見学の際には職員室に一声おかけください。



〈ダックスムーンの記念演奏の様子〉

■お問い合わせ先 小坂小学校(TEL29-2422) 小坂中学校(TEL29-3232)



Tall Poppy Syndrome

オーストラリアでは人と人の友情は深く、忠実であり、家族より先に友達に頼ることが多いです。何十年前に刻んだ友達関係だと思われませんが、移民や外国人をよく驚かせるのは、オーストラリア人がオープンに、そのような友達関係をすぐに築けることです。そして人間関係は階層より皆が平等という信条で作られ、行動でお互い敬意を示す傾向があります。社交では誰に対しても公平であることに努力が払われています。例えば、自分ではやらないようなことを人に頼むのは悪趣味とされています。一方、強い知性を示したり、自分自身を教養があると思ったりする人は他人に疑いや恨みを持って扱われる可能性が高いです。傲慢な態度や他の者より業績が優れている



と自慢する人は周りに切り捨てられます。そういう人たちは「Tall Poppy Syndrome(トールケシ病)」と呼ばれ、日本では「出る杭は打たれる」ということわざがあると似たように、オーストラリアでは「Cutting down the tall poppy(背の高いケシを切り落とす)」という言葉があります。このように、謙虚は社交に不可欠なものです。これはオーストラリア文化にも大きく影響されています。オーストラリア人は自分の実績に対して非常に謙虚であり、気取った印象を与えないように自嘲することも多いです。

学歴や財産があるからといって、地位が高いわけでも尊敬に値されるわけでもなく、むしろ、その人が人生において有利な立場にあることが認められています。この階層の不定が生まれたのは、おそらくオーストラリアが流刑社会から平等連邦へ移行するのを支えた平等主義的な信念のおかげでしょう。

※ブレットさんの原文をほぼそのまま掲載しています。